

## 博物館評価(2013年度)

### I 博物館評価について

2010年度より、当館では事業戦略会議ワーキングチームを立ち上げて、博物館評価(自己評価)の作業を開始した。この博物館評価は、NPOが指定管理者として管理運営をする中で、事業のみならず博物館活動全般において、それまで行ってきたことをチェックして改善をはかるために実施している。ワーキングチームのメンバーはNPO法人野田文化広場事務局長と学芸員4名で、検討内容の途中経過は随時、その間に開かれた企画事業委員会や法人の理事会で報告して意見を聴取してきた。

博物館評価表(A3折込)は、当館の3つのミッション(13ページ)を大項目とし、これに対応するようにして、それぞれの具体的な目標となる中項目を設定した上でさらに具体的な評価指標の項目をあげた。そこに、指定管理運営となった2007年度以降のデータを入れ、経年的な推移を示している。またモニタリング調査等で収集したデータを加えている。

### II 自己分析(Check)

#### ①博物館機能を充実させる

資料収集や調査研究等の博物館の基礎機能を充実させる。博物館の基礎機能とは、博物館の存在基盤であるコレクションのマネジメントである。2007年度以降、本格的なコレクションの収集、整理、保管管理と公開に向けた準備作業を行ってきた。また、その情報を公開することも進めている。

#### 【現状評価】

資料収集の状況について、収蔵点数(1)は昨年度と比べ微増した(398点)が、寄贈された資料件数(2)は前年度の約半分で、例年並みであった。これは、2013年度は1件複数点の写真や紙資料の寄贈や購入が、前年度よりも多かったためである。収集方法は寄贈や購入を主とし、不必要な寄託が行われないよう留意されている(3)。資料購入は2012年度より予算が10万円減額され、90万円となっている。2013年度もこの予算を効果的に活用して必要な資料を購入することができたと考えられる(4)。なお昨年度より表示している移管された資料件数(5)であるが、昨年度に引き続き移管資料はなかった。

資料の保管状況について、2013年度は隔年で実施している収蔵庫の燻蒸の実施年であり、2月に燻蒸を行った(6)。また、収蔵庫の定期的なモニタリングを続けており、異変があればすぐに気づくことができる体制がとられている。なお前年度からの回数の減少については、他業務との兼ね合いから点検間隔が間延びしたことが原因である(7)。虫害等は発生していないが、今後は前年度並みの年間10回を目途に計画的に点検を行う予定である。

昨年度より計測を開始した、資料再整理業務の実施状況を表す収蔵庫での作業日数(8,9)については、本館収蔵庫の日数が大きく減っているが、これは昨年度が収蔵庫内での資料の移動等の物理的な作業が多かったのに対し、それがひと段落した本年度はさらなる改善に向けた収蔵庫内資料棚の新規設置計画策定や資料データベースへの入力など、収蔵庫内に入らないでも行える作業を行っていたためである。

学芸員の活動について、学芸員の講演回数は例年に比べて少ない回数となっている(10)。対して学芸員による館外調査の件数は例年に比べ増加している(11)が、これは市内の絵馬を扱った特別展において、寺社やお堂などの現地調査の機会が多かったことと、文部科学省の学芸員等在外派遣研修制度を利用し、学芸員1名が1ヵ月間イギリスに研修に行ったためである。館蔵資料閲覧の件数(12)は例年よりも少なかった。新規収蔵資料の公開は引き続き企画展「野田に生きた人々 その生活と文化」の展示スペースの半分を充てて行い受け入れ件数ベースですべて紹介をした(13)。博物館の資料収集活動についての市民への説明責任を果たすと同時に、展示内容に変化を生み出す意味でも効果的に機能している。資料貸出件数は例年並み(14)であるが、ここ数年は小学校からの昆虫標本の貸出依頼が続いてお

り、博物館施設だけでなく、学校教育の現場でも館蔵資料が活用されている点は評価できよう。また、これまで「写真貸出件数」としていた枠は、今年度より「画像の提供、利用許可件数」とした(15)。これは、紙媒体だけでなくテレビ番組内での画像利用や Web 上での利用などが主となってきている現状に合わせたものであり、その分前年度までに比べて大きく増加している。

#### 【改善を要する点等】

前年度より引き続き良好に経過していると思われる。

#### ②利用者サービスを図る

すべての利用者に関わった博物館として、幅広い層の人びとが来館することを目指している。そのため、公共施設としての基本的な機能を維持し、さらに館内施設の充実や利用者・関係者の満足度やニーズを把握して質の高い市民サービスを提供することを心掛けてきた。

#### 【現状評価】

博物館、市民会館ともに通常ベースの開館日数であった(16,17)。博物館の総入館者数は昨年度と比較して増加し、初めて3万人を超えた(18)。そのため、1日平均入館者数も、博物館は計測開始以降最多となった(19)。リピーター率はこれまでの最大値(54.2%)となった(20)。内訳をみると、日本刀展以外、リピーターが過半数を超えている状況にあった。さらに、これまで初めて博物館を利用した「新規来館市民の割合」も21.1%と大きく増加しており(37)、新規来館者とリピーターの双方が増加したことが、総入館者数の増加につながったと思われる。今後も新規来館市民の獲得とリピーターの定着をバランスよく行っていきたい。

市民会館の方では、総入館者数、1日平均入館者数、貸部屋稼働率ともに前年度とほぼ同数であった(21,22,23)。また、貸部屋利用団体数はやや上がり、市内外の利用を合わせて1,000件を超え、過去最大となった(24,25)。これは、新たに定期利用を行う団体が出てきたことが影響していると思われる。利用者が増加すると同時に後述する利用マナーの問題も表面化してきており、何らかの対策が必要である。2011年度以降実施していない貸部屋利用者満足度(28)についても、来年度に実施すべきであろう。続いて、来館者が利用に満足しているかどうかのチェックである。展覧会の満足度、施設の雰囲気や居心地に対する満足度はいずれも微増した(26,27)。展覧会の満足度については、特別展「野田の絵馬」の内容評価がきわめて高かった(94.0pt)ため、それが全体を引き上げた結果と言える。その他の展示についても生活文化展以外は85ptを超えており、今後もこれ以上の値を維持することが望ましい。

職員・スタッフの対応を受けた来館者の割合は当年度も引き続き高く(29)、対応の満足度も本年度も引き続き90ポイント超えの高い値を保った(30)。これは博物館ボランティアやガイドボランティアの活躍に依るところが大きいと考えられる。

博物館刊行物の販売(32)は、特別展図録「野田の絵馬」が非常に好調な売れ行きを示し、会期終了前に完売となった。市内の多くの寺社に出品や調査でのご協力を頂いたため、氏子会などの関係者が多く買い求めていったためと考えられる。会期中は一般の来館者も買い求めることができるようにしたいため、大量に在庫を抱えることが無いように留意しつつも、売れ行きを予測して今後の図録の印刷冊数を検討していきたい。また刊行物以外の品物の売り上げはこれまでに比べて少ない(33)が、2011年度に販売を始めたストラップの在庫が僅少となったことと、2012年度はチャリティ映画の上映会を行っているためである。今年度の新たな取り組みとしては、市民の文化活動報告展「知ろう！みつけよう！野田の自然 いま・むかし」に合わせて、昆虫と野草のカンパジを1個100円で展示室内のガチャポンマシンで会期限定で販売し、会期中に350個を売り上げるなど好評であった。単価が安いため、売上金額としては大きなものではなかったが、明確な展示関連グッズとしては初めての取り組みであり、今後のグッズ展開を考える上でも良い機会となった。

【改善を要する点等】

刊行物以外の品物の売り上げ(33)について、市民の文化活動報告展の関連グッズとしてカンバッジの製作・販売を行ったが、その期間以外は新たなグッズ販売は行わなかった。展示関連グッズについては今後も機会を見つけて行う一方で、今後は恒常的に販売できるグッズの開発を行っていく必要があると感じられる。

貸部屋利用団体(24、25)が増加している一方で、年度後半より、ゴミの置き去りや指定外の場所での喫煙などをはじめとする利用者マナーの問題も感じられる。これは新規利用団体に限らず、全体の傾向として増えてきている。部屋を利用出来る文化財施設として長く市民に活用されていくためにも、掲示や対面でのコミュニケーションを通じて利用者へのルールの順守をお願いしていきたい。

③ 市民の交流の拠点にする

市内の様々なコミュニティに属する団体と広く連携をし、博物館がコミュニケーションの推進役となることで、地域の活性化・まちづくりに繋げていくことを目指してきた。

【現状評価】

交流事業は、予定していた観月会が昨年度に続き台風で中止のため2回となったが、十分な来場者を得たと考えられる(38)。なお中止となった観月会には123人の参加申込者がいた。さまざまなコミュニティとの連携(39～43)では、小中校、市民団体で特に多くの新規の連携関係を得た。本年度新たに関係のあった団体の具体的な概要は表1の通りである。

本年度は小学校からの団体見学がこれまでで最も多く(11件)、新たに来館した学校や学年が小中高の新規件数となっている。特に冬場の「昔の暮らし」の単元での3年生の来館が多く、半数以上を占める。

夏の新規採用教職員研修の場で、学校での博物館の利用方法について紹介を行っていることが件数の増加につながっていると考えられる。「昔の暮らし」での来館に対しては、近年は「なつかしの道具探究会」とともに、生活道具資料を閲覧させるだけでなく、火熨斗などの実演も交えて解説・体験を行っている。生活道具を活用した小学校見学への対応は今後も当館の強みとして伸ばしていくポイントである。また、今年度は寺子屋講座100回記念シンポジウムを7月に開催し、会場の1室に歴代の講師の現在の活動を紹介する展示・交流スペースを設けた。19人の講師から出品があり、シンポジウムの合間に多くの参加者が訪れ交流する姿が見られた。交流の場として機能しただけでなく、講座で話した講師の現在の活動を紹介することは、キャリアデザインの観点からも有益な取り組みであったといえよう。また、市民の文化活動報告展によってこれまであまり連携が図られていなかった自然関係の市民団体と連携を

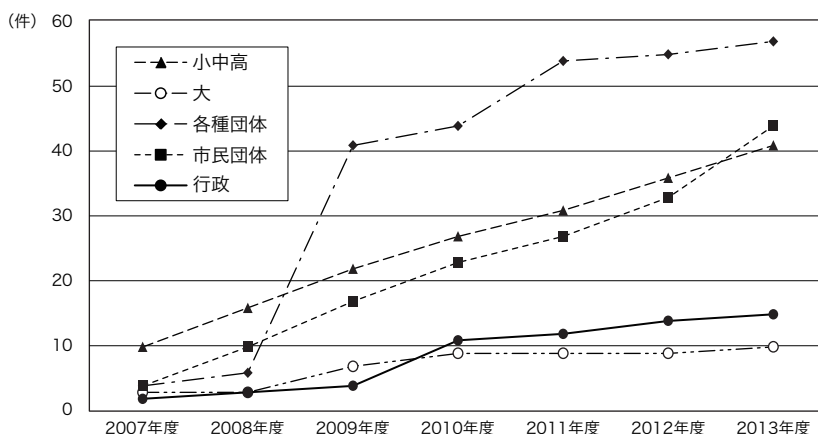
コミュニティの種別	団体・グループ名	内容
小中高専	野田市立中央小学校夏休み教室1～6年生	小学校見学
小中高専	野田市立関宿小学校3年生	小学校見学
小中高専	野田市立二川小学校3年生	小学校見学
小中高専	野田市立二ツ塚小学校3年生	小学校見学
小中高専	野田市立福田第一小学校3年生	小学校見学
各種(その他)	池松武之亮いびき研究所・資料館	寺子屋講師
市民団体	グループラえっと	企画展、関連事業
市民団体	サンクチュアリ野田	企画展、関連事業
市民団体	なかよし自然隊	企画展、関連事業
市民団体	野田の樹木を見て歩こう会	企画展、関連事業
市民団体	野田野鳥同好会	企画展
市民団体	野の草	企画展、関連事業
市民団体	花の会・野田	企画展
市民団体	野田吟詠同好会	ミュージアム・コンサート出演
市民団体	野田地方史懇話会絵馬部会	特別展
市民団体	利根運河大師護持会	寺子屋講師
市民団体	東日本へ笑顔を送る会	寺子屋講師
行政	野田市立興風図書館	寺子屋講師

表1 新たに連携をした団体・グループ(2013年度)

図れたことも評価できる。

**【改善を要する点等】**

各種団体(農・商工・医療福祉)(41)のうち、例年の課題となっている医療福祉関係との連携について、今年度は学芸員1名が文部科学省の学芸員等在外派遣研修を利用し、イギリスの博物館で1ヵ月間、博物館におけるソーシャル・インクルージョン活動の調査を行った。当分野は医療福祉とかかわりが深いいため、今後調査結果を活かした事業を展開していきたい。



**④市民や市役所との意思疎通を図る**

博物館職員と市民とが対等にコミュニケーションをすること、管理課との意思疎通をスムーズに行い、円滑な博物館運営につなげることを目指してきた。

**【現状評価】**

市民と意思疎通をする機会として、特別展オープングレセプションを一つの象徴的な場と考えている。2013年度は絵馬展でご協力をいただいた市内寺社の関係者らが多く来場して下さった(46)。また、2012年度より設けられた博物館懇談会も定期的に開催された(47)。2013年度は3回開催し、市民委員5名に向けて展示等の事業報告や事業計画について説明をし、いずれの回も有益なご指摘をいただいた。また、適切にターゲットにメッセージを届けるチラシのあり方や、今後展開を検討しているソーシャル・インクルージョンに関する事業について意見交換をすることができた。本懇談会は博物館評価の一環として位置付けられるものであり、懇談会議事録はホームページでも公開をしている。

次に行政(本庁)と博物館との関係について、市職員の来館回数(48)は増加傾向にあるが、博物館職員の訪庁回数(50)は減少している。減少してはいるものの、開館日である土日祝日は市役所が閉まっていることも勘案すれば、平日は平均して2日に一度は訪庁しており、回数の減少によって意思疎通に問題が出ているという状態を示しているわけではないと考えられる。市長、副市長、教育長の来館回数は、10月に野田・関宿合併10周年記念として誘致した将棋の竜王戦が当館(市民会館)で開催されたため、それに伴う来館があり増加している(49)。

**【改善を要する点等】**

全体として良好に推移していると思われる。

**⑤博物館の活動を広める**

情報発信をし、市民が博物館の情報を入手しやすい環境を作ってきた。また、メディアに取り上げて

もらうことによって、博物館や野田の魅力の向上に努めてきた。

#### 【現状評価】

TV、雑誌、新聞掲載が昨年度同様、やや低調の年度であった(51、52)。10月に当館(市民会館)で竜王戦が行われたが、2010年度の名人戦の時と異なり、会場としての当館に対する取材は無かった。これは主催者である新聞社のスタンスの違いなどに起因すると思われる。今年度よりリニューアルしたホームページでは、訪問者数が大きく減少している(54)が、これはアクセス解析ソフトの変更によるものであり、実際に訪問者数が下がっているようには体感的には感じられない。むしろ、新規開設したメールフォームを利用した講座申込や問い合わせの増加、またホームページで基本的な情報を確認した上で電話問い合わせが増加している印象があり、リニューアルページが効果的に活用されていると考えられる。本年度の数値をベースに、今後の経過を見ていきたい。

#### 【改善を要する点等】

メディアによる情報発信が低調であった背景として、テレビにおいてはケーブルテレビの取材回数の減少がある。これは、本年度内にケーブルテレビ会社側で合併等があったことも要因の一つと考えられる。例年4-5件の事業が取材されていたが、本年度は事業の取材は0であった。来年度以降の動向を注視しながら、広報戦略を再検討していきたい。また、新聞においても展覧会以外に新聞に取り上げられた記事が無かった。展覧会の記事数は、例年に比べて際立って少ないわけではないため、その他の面で新聞の目を引く取り組みが少なかった年度だったともいえよう。メディアに取り上げられることを目的とした事業を行う予定はないが、マンネリによる停滞を引き起こさないためにも、こうした指標は常に意識をし、効果的な情報提供に努めていく必要がある。

#### ⑥市民のキャリアデザインに貢献する

市民が、キャリアデザイン事業に関心をもって参加することを目指した。また、ライフキャリアの各段階に応じた支援をすることで、市民が、学習目標の達成、キャリアの再設計、社会参加や地域貢献へつなげていけるようにした。

#### 【現状評価】

寺子屋講座の平均参加者数(56)、キャリアデザイン事業の平均参加者数(57)は安定して推移している。市民参加型企画展の平均入館者数(55)はわずかに減少しているが、本年度に実施した日本刀展が通常の企画展に比べて会期が短かった(約1ヵ月)ことが要因であり、1日平均入館者数で比べれば大きく増加している。親子、3世代来館の割合は約半分となった(58)が、一昨年と同程度の数値であり、今後の変化を追っていきたい。

市民のキャリアのステップアップにおいては、野田古文書仲間が昨年度末に開催した文化活動報告展を受けて、多くの新規会員が入会するなど、会としてのステップアップが見られる(60,61)。一方、なつかしの道具探究会も安定的に活動を続けている(62,63)。

博物館ボランティアは本年度より4名が新規に加わり、13人体制となったことで、活動延べ人数はこれまでで最も多くなった(68)。増員の目安であった開館日中の常時有人化はシフト上達成され、さらに博物館開館日264日中、実際の業務従事日は220.5日(62ページ参照)となり、有人日は8割を超えた。博物館ボランティアによる対応は来館者から好評を得ており、展示アンケート(41~45ページ)やモニタリング調査(30)からもうかがうことができる。

#### 【改善を要する点等】

自主研究グループにおいては、野田古文書仲間は次年度以降は自主活動に移行する。今後、新たなグループの立ち上げにつながる新規講座の実施、そしてグループ結成後は中長期的な視点で講座の実施や

サポートのあり方を検討していく必要がある。人材バンクについては、依然として内部的な活用に留まっており、利用は少ない(66,67)。学校関係者やNPOなどを念頭に、活用を図れるように整備を進めていきたい。

	中項目	小項目	評価指標	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	凡例
掘り起こし活用する博物館 ミッション1 地域の文化資源を	①博物館機能を充実させる	資料の収集を行っているか	1 資料収蔵点数	16,673点	18,014点	19,750点	20,762点	21,901点	22,227点	22,625点	当館蔵の資料総数。1件に複数点の資料が含まれる場合、点で計上。
			2 寄贈された資料件数	10件	96件	156件	84件	102件	179件	98件	当該年度に市民等から寄贈された資料数。資料台帳に登録された件数で計上。
			3 寄託された資料件数	1件	13件	0件	4件	1件	2件	0件	当該年度に寄託された資料数。資料台帳に登録された件数で計上。寄託資料のため、所有者に返却することで数が減じた場合は-で相殺する。
			4 購入した資料件数	18件/960,905円	11件/137,870円	7件/880,288円	26件/487,230円	47件/949,090円	33件/828,200円	16件/804,550円	当該年度に購入した資料数。資料台帳に登録された件数/購入総額を記載。
			5 移管された資料件数	0件	5件	63件	4件	4件	0件	0件	当該年度に移管された資料数。資料台帳に登録された件数で計上。
		資料の保管状況は良好か	6 燻蒸回数	1回	0回	1回	0回	1回	0回	1回	収蔵庫内の燻蒸の実施回数。
			7 収蔵庫、展示室ケース内の粘着トラップの点検回数	-	-	14回	15回	15回	9回	4回	展示室と収蔵庫に設置している虫害検査用粘着トラップの点検回数。
		収蔵資料は利用・公開しやすいよう整理が進められているか	8 本館収蔵庫での作業日数	-	-	-	-	-	33日	13日	本館収蔵庫に入庫し、清掃や整理等、資料整理(再整理含む)に関する作業を行った日数。
			9 上花輪収蔵庫での作業日数	-	-	-	-	-	13日	18日	上花輪収蔵庫に行き、資料整理等の作業を行った日数。
		学芸員は調査研究発表を行っているか	10 学芸員の講演・講座等の講師件数	2件	10件	11件	8件	16件	9件	5件	学芸員が業務内および業務外で講師等をつとめた件数。
			11 学芸員による館外調査の件数	-	-	63件	73件	79件	75件	86件	学芸員が「展覧会や資料調査等の目的で、館外で調査を行った件数。
		収蔵資料を公開しているか	12 館蔵資料閲覧の件数	-	-	11件	48件	35件	35件	20件	展示をしていない館蔵資料に対して閲覧申請を受け、対応をした件数。
			13 過去2年間の新規収蔵資料の展示公開割合	-	-	-	-	100%	100%	100%	前々年度と前年度に寄贈、寄託、購入により収集した資料を、展示や特別公開等の手段で一般公開した割合。寄贈者数をベースに計上(複数点ある「資料群」を収集した場合はそのうちの1点以上を公開)。また、調査参考目的で収集した資料(古書籍等)は対象外とする。
			14 他機関への資料貸出件数	2件	4件	7件	7件	4件	7件	4件	他機関への博物館資料等の貸出件数。
			15 他機関等への画像の提供、利用許可件数	9件	11件	14件	19件	25件	28件	47件	他機関への博物館資料等の写真(ポジ、データ)等の貸出件数。
②利用者サービスを図る	開館日数は十分か	16 博物館開館日数	284日	231日	249日	254日	273日	269日	264日	火曜日・年末年始などの定期休館日、整備工事、展示替えやイベント等に伴う臨時休館日を除いた、年間の開館日数。	
		17 市民会館開館日数	316日	312日	311日	265日	311日	308日	309日	博物館開館日の入館者数。入り口のカウンタで計上。	
	施設の利用率は保たれているか	18 博物館入館者数	22,642人	23,977人	24,168人	28,583人	29,868人	29,753人	31,328人	博物館開館日の入館者数。入り口のカウンタで計上。	
		19 博物館1日平均入館者数	79.7人	103.8人	97.1人	112.5人	109.4人	110.6人	118.7人	博物館開館日の入館者数を開館日でならしたもの。	
		20 特別展・企画展の平均リピーター率	46.1%	47.9%	36.8%	44.0%	50.3%	52.2%	54.2%	年間の展覧会アンケート回収枚数のうち、来館回数が2回目以上とした回答の割合。	
		21 市民会館の入館者数	4,844人※23月のみ	42,701人	43,741人	44,575人	44,508人	47,114人	46,276人	市民会館開館日の入館者数。正面玄関と内玄関の2箇所の入り口のカウンタで計上。	
		22 市民会館1日平均入館者数	146.8人※23月のみ	136.9人	140.6人	168.2人	143.1人	153.0人	149.8人	市民会館開館日の入館者数を開館日でならしたもの。	
	来館者は利用に満足しているか	23 市民会館貸部屋稼働率	84.8%	91.3%	93.6%	97.0%	93.6%	96.4%	96.1%	市民会館の開館日のうち、貸部屋が利用された日の割合。	
		24 市民会館の貸部屋利用団体数(市内)	603件	758件	804件	903件	962件	933件	986件	貸部屋申込団体のうち、市内の団体あるいは在住者が申し込み、利用した件数。	
		25 市民会館の貸部屋利用団体数(市外)	1件	13件	17件	28件	32件	30件	36件	貸部屋申込団体のうち、市外の団体あるいは在住者が申し込み、利用した件数。	
		26 特別展・企画展の平均満足度	90.2 pt	89.1 pt	86.5 pt	87.3 pt	88.1 pt	85.4pt	89.4pt	展覧会アンケートの該当項目を点数化(※1)したもの。	
		27 博物館の雰囲気、居心地に対する満足度	85.9 pt	84.3 pt	86 pt	84.9 pt	86.7 pt	84.4pt	87.4pt	展覧会アンケートの該当項目を点数化したもの。	
		28 貸部屋利用者満足度	-	-	-	-	86.7 pt	-	-	市民会館利用者アンケート(※2)の総合的満足度を点数化したもの。	
		29 職員・スタッフの対応を受けた来館者の割合	-	-	-	-	84.6%	85.8%	86.8%	モニタリング調査(※3)の該当項目より計上。	
	ミュージアム・ショップは機能しているか	30 職員・スタッフの対応を受けた来館者の満足度	-	-	-	-	93.7pt	90.9pt	90.1pt	モニタリング調査の該当項目を点数化したもの。	
31 しょうがい者、高齢者等で、見学に補助が必要な方への対応件数		-	-	-	-	9件	9件	1件	当館職員、博物館ボランティアが、車椅子での移動(段差部分等)の介助、筆談等で見学を補助した件数。		
32 博物館刊行物の販売冊数		326冊	284冊	713冊	637冊	541冊	685冊	543冊	博物館発行の図録や書籍の販売冊数の合計。委託書籍は含まない。		
博物館・市民会館へ利用者は迷わず来られるか	33 刊行物以外の品物の売り上げ	-	-	-	-	356,620円	351,153円	93,080円	書籍以外のグッズ類販売(自主事業)の売り上げ。		
	34 駅からのアクセス満足度	-	-	-	-	68.9 pt	86.9pt	-	モニタリング調査の該当項目を点数化したもの。		
	35 自家用車によるアクセス満足度	-	-	-	-	85.2 pt	82.5pt	-	モニタリング調査の該当項目を点数化したもの。		
	36 清潔さは保たれているか	-	-	-	-	10回	5回	5回	学芸員が市民つどいの間を清掃した回数。定期的な(日々の)清掃を除く。		
	37 これまで博物館を利用してこなかった市民に利用されるようになってきているか	-	-	-	-	13.6%	15.7%	21.1%	モニタリング調査において、市内在住かつ初来館であると回答した利用者の割合。		
	③市民の交流の拠点にする	施設が市民の交流と連携の場(ハブ)の役割を果たしているか	38 交流事業の参加者総数	560人/6回	332人/3回	303人/3回	173人/2回	227人/3回	240人/2回	170人/2回	「観月会」「ミュージアム・コンサート」、その他セレモニーなどの参加者総数。交流事業に分類されている事業のうち、学校見学対応は含まない。
39 小学校、中学校、高校、専門学校との連携件数			10件	16件	22件	27件	31件	36件	41件	市内外の学校との連携の累積件数(※4)。見学会、職場体験、学芸員による講演や出張授業、学校(クラブ)によるレセプションへの出演など。	
40 大学との連携件数			3件	3件	7件	9件	9件	9件	10件	大学との連携の累積件数。特別展のための合同調査、インターン受入、学芸員による講義、学生のスタッフ業務など。	
41 各種団体(農・商工・医療福祉)との連携件数			4件	6件	41件	44件	54件	55件	57件	各種団体との連携の累積件数。団体代表者への寺子屋講師依頼、学芸員による講演、展覧会や事業への協力など。	
42 市民団体との連携件数			4件	10件	17件	23件	27件	33件	44件	市民団体との連携の累積件数。市民団体とは、市民が文化活動、NPO、ボランティア(農・商工・医療福祉以外の分野)の活動を行う団体。	
43 行政との連携件数			2件	3件	4件	11件	12件	14件	15件	学校以外の公共機関(公共博物館を含む)や行政機関との連携の累積件数。事業共催、展覧会協力、行政職員への寺子屋講師依頼、学芸員による講演など。	
44 当館のまちづくりの拠点機能を知っている市民の割合			-	-	-	-	52.3%	43.5%	-	モニタリング調査の該当項目より計上。	
地域産業のPRになる取り組みをしているか		45 土産物マップの印刷枚数	-	-	-	-	2,700枚	-	-	野田散策MAP「土産物編」の印刷枚数。なお印刷したものはすべて当館内で配布している。	

	中項目	小項目	評価指標	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	凡例
集い交流する博物館 ミッション2 人やコミュニティが	④市民や市役所との意思疎通を図る	博物館は市民と意思疎通する機会を設けているか	46 特別展オープニングレセプションの参加者数	12人	50人	80人	45人	55人	38人	46人	特別展の初日に行われるオープニングレセプションへの参加者数。
			47 博物館懇談会の回数	-	-	-	-	-	3回	3回	博物館評価の一環として市民から博物館へ意見をもらう懇談会の開催回数。
			48 市職員の来館回数	195回	76回	70回	107回	123回	194回	223回	日々の業務の中で市職員が来館した回数。館務日誌から計上。
			49 市長、副市長、教育長の来館回数	12回	2回	6回	6回	16回	12回	18回	公式・非公式を問わず来館した回数。
			50 博物館職員の訪庁回数	-	-	-	-	167回	188回	138回	当館職員が業務のため市役所を訪問した回数。
	⑤博物館の活動を広める	情報を発信しているか	51 TVで博物館が取り上げられた件数	11件	9件	8件	8件	8件	6件	3件	TVのニュースや特集番組で当館及び当館事業が紹介された件数。ケーブルテレビを含む。
			52 新聞で博物館が取り上げられた件数	11件	22件	14件	18件	14件	10件	10件	新聞で当館及び当館事業が紹介された件数。
			53 ロケ地としての利用回数	0回	1回	1回	3回	1回	1回	2回	市民会館がCMや映画等のロケ地として使用された回数。実績はTVドラマ、TVCM、CDジャケット撮影、雑誌撮影など。非商用の撮影利用は含まない。
			54 ウェブサイトのアクセス件数	-	40,522件	56,828件	61,531件	52,021件	50,807件 ※4月～2月まで	16,343件	ホームページのリニューアルによりカウント方法が変更(※5)。ホームページ管理業務委託者より提出される月例報告を元としたセッション数。ユーザーがサイトに訪れた回数で、30分以内の同一ユーザーの再訪問はカウントされない。
			55 市民参加型企画展(年1～2回)の平均入館者数	5,404人	4,909人	5,969人	8,510人	8,113人	8,475人	7,987人	「市民コレクション展」「市民の文化活動報告展」「市民公募展」「市民アート展」など市民参加型企画展開催時の博物館入館者数合計を、企画展開催回数でならしたものの。
ミッション3 人びとの生き方や成長を支援して、キャリアデザインをはかる博物館	市民が関心を持ち、事業参加しているか	56 寺子屋講座(年22～24回)の平均参加者数	21人	16人	16人	16人	20人	17人	20人	寺子屋講座「まちの仕事人講話」と「芸道文化講座」の参加者数合計を開催回数でならしたものの。受付簿を元に計上。	
		57 キャリアデザイン事業(講座関係)(年7～10回)の平均参加者数	9人	19人	13人	14人	9人	16人	18人	「自主研究グループ育成講座」「キャリアデザイン連続講座」「キャリアデザイン講演会」「ワークショップ」「親と子の茶道講座」の参加者数を開催回数でならしたものの。受付簿を元に計上。連続講座の場合は延べ回数+延べ人数で計上。	
		58 親子、3世代来館の割合	-	-	-	-	8.2%	15.4%	7.3%	モニタリング調査において、親子あるいは3世代で来館したと回答した利用者の割合。	
		59 「市民のキャリアデザインの拠点」機能を知っている来館者の割合	-	-	-	-	46.4%	38.9%	-	モニタリング調査の該当項目より計上。	
		市民がキャリアデザインに貢献する	市民がキャリアのステップアップを図っているか	60 2009年度自主研究グループ「野田古文書仲間」の人数			13人 (うち新規2人)	11人 (うち新規0人)	11人 (うち新規0人)	10人 (うち新規0人)	20人 (うち新規12人)
	61 2009年度自主研究グループ「野田古文書仲間」の活動回数					16回	22回	19回	20回	19回	「野田古文書仲間」が活動した回数。博物館で把握している活動を計上。
	62 2011年度自主研究グループ「なつかしの道具探究会」の人数							5人 (うち新規0人)	6人 (うち新規2人)	7人 (うち新規1人)	講座後、自主研究グループ結成の呼びかけに応じて参加した修了者の人数。結成年度以降は当該年度末時点の会員数。( )内は、当該年度に新たにメンバーに加わった人数。
	63 2011年度自主研究グループ「なつかしの道具探究会」の活動回数							13回	23回	24回	「なつかしの道具探究会」が活動した回数。博物館で把握している活動を計上。
	64 自主研究グループの活動実施回数合計			3回	2回	16回	22回	32回	43回	43回	これまで発足した自主研究グループの活動実施回数の合計。
	市民がキャリアのステップアップを図っているか	65 事業参加者のうち寺子屋講師を務めた人の件数	4件	2件	4件	8件	6件	7件	4件		
66 人材バンク登録件数		-	-	-	137件	154件	170件	190件	人材バンクに登録された人数。		
67 人材バンク閲覧件数		1件	1件	1件	2件	2件	2件	0件	人材バンクを閲覧、あるいは職員が人材バンク情報を利用して人材を仲介した件数。		
68 博物館ボランティアの活動延べ人数				168人	348人	480人	449人	549人	博物館ボランティアの通常業務、および月例の連絡会、研修会への参加人数。ボランティアの出動簿を元に計上。		

■ : 該当する事業が開始されていない年    - : データがない年

- ※1 展覧会アンケートの4段階の選択肢の上位から100、75、25、0ポイント(pt)を付与し、当該項目回答者総数で除して算出した点数。
- ※2 市民会館の頻繁な利用者(おおむね月2回以上利用する団体のメンバー)に直接アンケートを手渡して回収。2007年～2010年度非実施。2011年度回収枚数66枚。2012年度、2013年度非実施。
- ※3 開館日から無作為に抽出した10日、9時～17時の間、当館入口(門2か所)から出てくる利用者全員を対象に(団体等複数人の場合はその内の1名)対面式(インタビュー形式)の調査。2011年度より実施。2011年度回収枚数306枚。2012年度回収枚数266枚。2013年度回収枚数262枚。
- ※4 市民個人ではなく、市内コミュニティ(団体や組織)との「つながり」が出来たものを1件として累積計上。資料調査、講演協力、団体や組織としてのイベント参加及び協力、施設管理に関わるもの等を含む。
- ※5 2013年4月1日にリニューアルしたホームページを公開。それに伴いアクセス解析のソフトもwebalizerからGoogleAnalyticsに変更になり指標も変わった。アクセス解析の指標の数字が大幅に下がっているのは、ソフトの計測方法の違いによるものである。

2012年度年報紀要に公表した数値のうち、「67.人材バンク閲覧件数」は集計に誤りがあり、このたび修正をした数値を掲載いたしました。お詫びして訂正いたします。